

「8020運動と国民医療」

平成14年5月診療分医科レセプトからの集計

情報調査室

2年目となる本調査の集計結果が出ましたので抜粋して報告します。平成13年より始めた「8020運動実績調査」ですが、平成14年5月に県歯会員の診療所を受診された70歳以上の高齢者の歯科レセプトの傷病名欄に残存歯数を記入していただくようお願いしたところ、42,469枚という多くのレセプトに記載がありました。

前回までは20本以上の残存歯を有するかどうかの違いだけを調べましたが、今回からは残存歯数を調べることで、より詳細な分析を行う事が可能となりました。残存歯数は増齢に伴い減少していきますので、回帰曲線式を求めることで、年齢と性別から予想される残存歯数を算出することができました。この予想残存歯数と実際の残存歯数との残差を求め、その正負によって歯の多い人と少ない人に分類しました。こうすることで年齢や性別の影響を極力排除した分析が可能になると考えました。また、入院レセプトと外来レセプトでは点数や日数に大きな違いがあるため、別のグループに分類しました。

こうして分類したそれぞれのグループにおいて主病名や診療科目ごとに診療点数と診療実日数を分析した結果、表1に示すような結果が出ました。つまり入院外来を併せた全体集計では、残存歯数が回帰式からの予想残存歯数未満の人の診療点数合計は予想歯数以上の人の13.91%多くなりました。また入院だけのレセプト集計からは、予想歯数未満の人の実日数合計は予想数以上の人の25.45%多くなり、入院診療点数合計は5.95%多くなりました。

昨年までの集計では、20本以上の残存歯を有するかどうかだけの比較でしたので年齢や性別による調整は行わずに比較していましたが、今回調整を行った上での比較において、特に入院実日数に顕著な差が認められました。

また、入院件数を回帰式からの予想残存歯数との残差正負別に主病名ごとに比較した結果、新生物や循環器といった重篤な疾患での入院件数において歯の少ない人のほうが多いことがわかります。(図1参照)

表1 回帰式予想残存歯本数との残差の正負別実日数合計と診療点数合計の比較

	残存歯数	残存歯数>=回帰式予想	残存歯数<回帰式予想	%
全体	実日数合計 (日)	5.91	5.97	1.03
	診療点数合計 (点)	4,008.46	4,566.18	13.91
外来	実日数合計 (日)	5.63	5.46	-2.99
	診療点数合計 (点)	3,139.35	3,207.97	2.19
入院	実日数合計 (日)	11.28	14.14	25.45
	診療点数合計 (点)	33,660.39	35,664.14	5.95

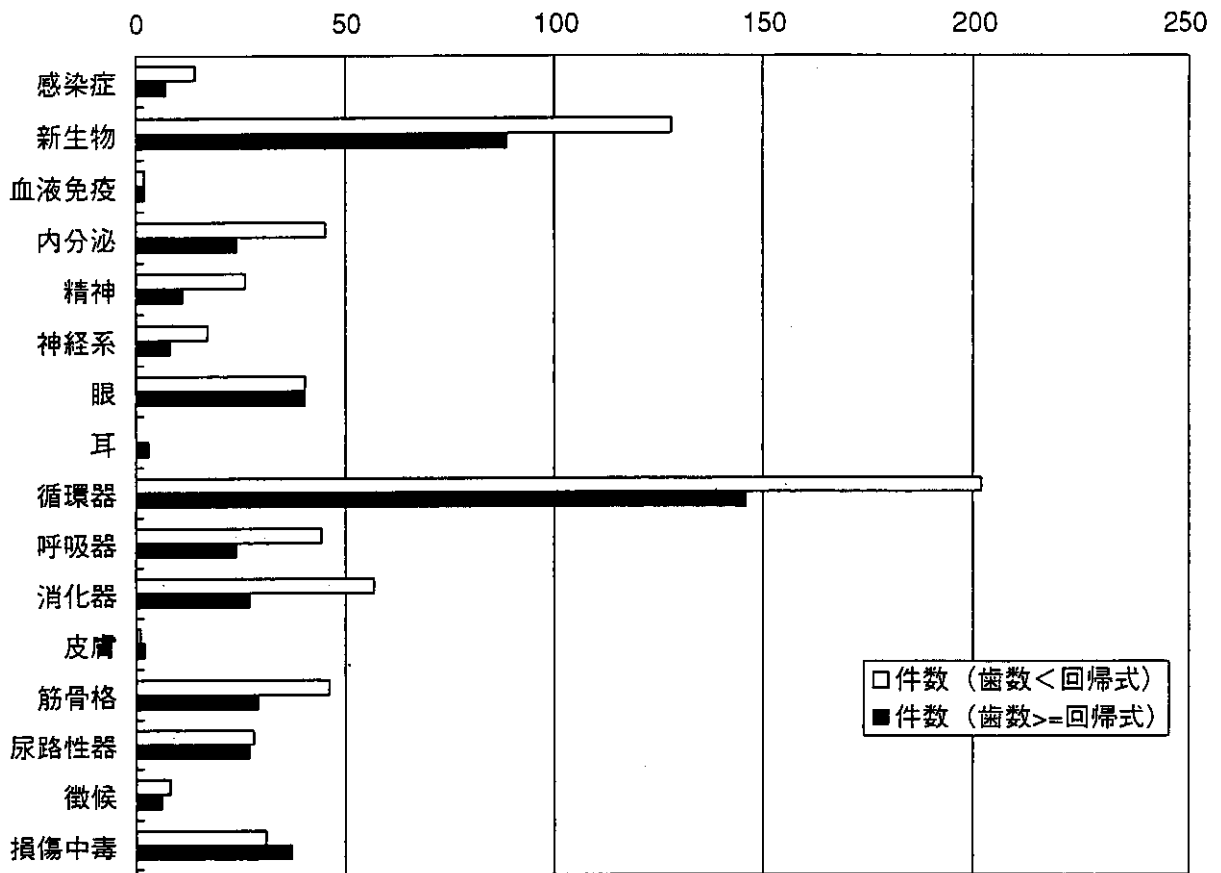


図1 入院主病名別件数 回帰式との残差正負別

まとめ

これらから、残存歯数が少ない人ほど、新生物や循環器という重篤な疾患との統計的関連があると言えるでしょう。また入院にいたるケースが多く、しかも入院日数が長くなる傾向にあることもわかりました。

これまで集計分析を行ってきたこの調査結果を来春3月12日にハワイ・コンベンションセンターで開催される国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research 略称 IADR) 第82回総会で発表することが決定

しました。

兵庫県国民健康保険団体連合会の協力で行った貴重な調査結果を得ることができたことに心から感謝したいと思います。この調査結果が一人でも多くの幸福な老後に結びつくよう、歯科界としての役割を果たしていきたいと思いをします。

最後に、調査にご協力いただいた兵庫県歯科医師会会員の先生がたに厚く御礼申し上げます。